家庭用エアコンクリーニングセット

解説書

日本エアコンシステム有限会社

【内容物】

壁掛け用ホッパー、電池式噴霧器、薬品(700ｍｌ入り)
養生マスカー（550mm ｘ　１巻、2100mm　ｘ　１巻)、ゴム手袋、粘着テープ、
タオル、薬品噴霧用スプレー、排水用容器

【お客さまにご用意いただくもの】

＋ドライバー、噴霧器用電池（単一乾電池４コ)、脚立（作業台)、
カッターもしくははさみ、古新聞

【用意しておくと便利なもの。】

掃除機、ナイロンブラシ（もしくは使い古しの歯ブラシ)、懐中電灯

【クリーニング作業を始める前に】

・エアコンを運転し異常がないことを確認の上、電源コンセントを抜いてから作業に入ってください。
・エアコンの周辺にある物を移動し、作業しやすいようにしてください。
・脚立や作業台の上での作業ですので洗浄中や登り降りの際などは十分ご注意ください。
・エアコンのアルミフィンには直接触れないようにしてください。
・　ホッパーをご使用前に引っ張ったり、破いたりしないでください。

【作業手順】

１、まず壁面が濡れないように壁養生を行います。養生マスカー（2100mm）をエアコンのすぐ下の壁面に貼付けます。エアコンの幅よりやや大きめにはさみやカッターで切り、下に広げて下さい。

２、床面の養生は古新聞や養生マスカーなどを敷いておきます。その上にエアコンの高さに応じた作業台を置いてください。

３、フィルターを取り外してから、外装パネルを取り外します。エアコンの吹き出し口付近（２～３ヶ所）の下の部分のビスを＋ドライバーで外します。

４、ビスは化粧ブタで隠れている場合がありますので、注意してご覧下さい。

５、外装パネルの両サイドを持ち上へ持ち上げるように、軽くゆらしながら外してください。吹出し口の羽根（ルーバー）が引っ掛かる場合は角度を変えると外しやすいでしょう。エアコンの上部は本体の爪に引掛っているので、割れないよう十分注意してください。

※外装パネルは本体上部にテープ止めされている場合や吹出し口付近２、３か所以外にもビス止めされていることもあります。取り外し方についての不明点があればエアコンの取扱説明書をお読みいただくか、各エアコンのメーカーにお問い合わせ下さい。

６、取り外したフィルターやパネルは別途、ベランダやお風呂場などで洗って下さい。

７、エアコン右側にある電装部分を養生します。絶対に濡れてはいけない部分ですので、隙間のできないようにタオルを適当な大きさに折って覆い、布テープでしっかりと固定します。電装部分は押したり、さわったりしないように作業してください。

※エアコンによっては、吹き出し口の周辺に隙間があり背部の方へ水がもれる機種、脇にルーバーモーターが露出している機種、中央部にリモコンの受光部がある機種等、様々なタイプがありますので、機種にあわせて布テープや養生ポリシート等で漏れたり濡れないようにしっかり養生してください。

８、次は、壁掛け用ホッパーを取付けますがその前に、養生マスカー（550mm）をエアコン本体に一周とちょっと巻きハサミやカッターで切ります。

９、養生マスカーのシート部を全部ひろげておきます。

10、ホッパーのゴムバンドの部分を両手で持ってエアコンの上部に掛け、ホッパーの本体がエアコンの下になるように取付けます。ゴムバンドは多少張った状態が適性です。適正でない場合は、ゴムバンドの縛る位置をかえて調整してください。

11、養生マスカーのシート部分をホッパー内に洗浄水が流れるように広げておきます。

12、ホッパーのホースの先端に排水用容器を置き、洗浄の準備ＯＫです。準備できたらゴム手袋をしてください。

13、洗浄作業に入る前にエアコンの汚れがひどい場合は、ご家庭の掃除機を使い除去してください。アルミフィンはやわらかいので触れて曲げないよう注意してください。噴霧用スプレーに薬品を入れ、水で 10 倍ほどに希釈して下さい。ノズル先端部の噴霧口を洗いやすいように調整しアルミフィンにまんべんなく噴霧します。

14、吹出し口やその奥のファンの部分にも薬品を噴霧して下さい。ファンが良く見えない場合は懐中電灯で内部をのぞき、薬品がまんべんなくかかるようファンを手でまわして噴霧します。

15、電池式噴霧器に水をいれ汚れを洗い流します。電装部分に水が掛からないように注意しながら、すみずみまでしっかりとクリーニングしてください。薬品や汚れが残らないよう十分水洗いして下さい。

※アルミフィンの洗浄水はドレンパンを通り、ホースで室外に排水されます。その流れが悪い場合はドレンづまりの可能性があります。もし、冷房運転時に水漏れを起こしたら、修理店にご依頼ください。また、洗浄中に電装部分に水や薬品がかかったら、すみやかにドライヤーで十分に乾燥させてください。

16、吹出し口の奥のファンの部分はノズル先端で回転させながら洗浄すると効率的にクリーニングできます。

17、洗浄後、エアコンに巻いた養生マスカーを取外しホッパー内に入れておきます。

18、電装部のタオルを取外してエアコン本体内の水気を拭き取ります。

19、ゴムバンドの部分を持ってホッパーを取外します。

20、外装パネルの取付けの際は、上部の爪を本体に掛けてから下部をビス止めします。吹出し口の羽根（ルーバー）が引っ掛かる場合は角度を変えたり、羽根を先に外装パネルの中に納めてからおこなうと、取り付け易くなる場合もあります。

21,そのあとフィルターを取り付けます。

22、コンセントを入れ運転確認します。運転開始時、送風ファンが回り始めると吹き出し口から水滴が飛んでくるので、濡れないようタオルを広げてうけてください。

23、運転異常がなければ、全体を拭き掃除して作業完了です。